Service Ace
サービスエース

二十二球目・「半田の新たな歴史の始まり」

半田市長 榊原純夫

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかで希望に満ちた初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から半田市政に対し、格別のご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

新たな歴史を刻む 市役所新庁舎がオープン！

２０１５年、新たな年を迎えると同時に、半田市の新たな歴史を刻む、市役所新庁舎がオープンいたします。

私が市長に就任した平成21年当時は、リーマンショックに端を発した、長期にわたる景気低迷の真っ只中にありました。しかも、下水道事業や土地区画整理事業など大型プロジェクトが進行中であり、新庁舎建設事業については、見直しを含め、いかに舵取りをするかかが大きな課題でありました。

昭和35年に建設された北館と中館は、耐震補強工事もできないほど老朽化が著しく、災害対策拠点施設としての機能を考えると、建て替えの必要性、緊急性は明らかでした。そこで、平成元年建設の南館を残し、延べ面積を約１０，０００㎡にすることで事業費の圧縮を図り、最短の平成25年の完成に向け、事業着手を決断いたしました。

東日本大震災の発生 「命を守る新庁舎」への舵切り

折しも、新庁舎の実施設計に入った直後の平成23年3月11日、東日本大震災が発生。この未曾有の大災害は、本市防災計画の根本からの見直しを余儀ないものとしました。もちろん、実施設計の策定中であった新庁舎建設事業も、建設場所を含めゼロから再度検討せざるを得なくなりました。一気に緊迫した状況の中、一刻の猶予もない判断を迫られたのは言うまでもありません。防災に関する機能を再検証するため、減災や建築に関する有識者からの意見、市政懇談会などを通じ、市民の皆さまからのご意見などを伺いました。特に建設場所を現在地とすることについては、賛否両論、多くのご意見、ご提言をいただきました。

熟慮を重ねた結果、防災拠点施設として、また、市役所の近隣にお住まいの皆さまが避難可能な津波避難ビル機能も有する「命を守る新庁舎」として現在地に建設する決断をいたしました。同時に、南館の利用を断念し、すべてを一新した約１５，０００㎡の新庁舎建設へと舵を切り直し、更なる地盤のかさ上げや最先端の免震装置を採用するなど、特に防災機能面を強化した庁舎といたしました。

このように紆余曲折を経てオープンした新庁舎は、東日本大震災の教訓を生かし、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震などの有事にも盤石の備えをまといつつも、「現代の蔵」をイメージした外観とするなど、景観に配慮した市民に親しみやすいランドマークとして誕生することとなりました。半田市の新たな歴史を刻むに相応しい新庁舎であると自負しております。

住みよいまちを目指して 拠点新たに一歩ずつ

こうして新たな庁舎という強固な基盤を得たところですが、これは、いわゆる足固めができたに過ぎません。この庁舎を拠点に、市民協働の理念のもと、重点施策の「防災・減災」「教育・子育て」「観光振興」を始めとする各種の施策を市民の皆さまとともに推し進め、「住みよいまち、訪れたくなるまち・半田」の実現に向け、本年も市政に邁進してまいる所存です。

最後となりましたが、市民の皆さまにとりまして、健康で明るく幸多き年になりますようお祈り申し上げ、新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。